

**麻 酔**

麻酔は、手術の際には必要不可欠なものです。一般的に麻酔への関心はまだ低いように思われます。麻酔とは、ただ手術の最中に痛みや意識をとったりするだけのものではなく、手術中によって受けるさまざまなストレスから体を守り、よい状態に保つことなどです。

麻酔は大きく分けて、意識をとってしまう全身麻酔と、体の一部分だけに麻酔を効かせて意識は保たれる局所麻酔の2つがあります。さらに、局所麻酔には表面麻酔、浸潤麻酔、末梢神経ブロック、傍脊椎麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、静脈内局所麻酔といったものがあります。これらの麻酔法の中から、手術部位や手術時間、全身状態などを考慮し、最適な麻酔方法が選択されます。

ところで、「よくお酒を飲むのだけれど、麻酔が効きにくいのでは」という質問をされることがしばしばあります。確かにお酒をよく飲んでいる人は、一部の薬の肝臓での代謝能力が高まっています、薬の使用料が

少しだけ多くなることがあるかもしれませんが、そもそも薬の必要量には、年齢や体質などいろいろな要素が関与していて、個人差があるものです。麻酔中には、血圧や脈拍の変化などを見ながら、麻酔薬を追加したり持続的に投与したりと、適切な麻酔の深さを保つよう絶えず調節していますので、麻酔が効きにくいのではないかと、という心配は必要ありません。また、このように手術中は麻酔を調節し続けているので、途中で麻酔がきれて手術中に目が覚めてしまうということもないのです。そして手術が終われば、多少の時間差はあっても、必ず麻酔は醒めるのです。

現在では、麻酔技術や麻酔薬の進歩、モニターの進歩などにより、麻酔の安全性は非常に高いものとなってきました。そして麻酔科医師は、手術によるあらゆるストレスから患者さんの体を守り続けています。もしも手術を受けなければならなくなったとき、麻酔に関して疑問があれば、どんなことでも麻酔科医師にご相談ください。

( 麻酔科医長 垣本めいこ )

**【外来診察のご案内】**

**耳鼻咽喉科**

外来診察は下記のとおりとなります。

	月	火	水	木	金	土 (1・3・5)
担当医	木村	木村	木村	木村	金田	木村

**眼科**

6月より外来診察は下記のとおりとなります。

	月	火	水	木	金	土 (1・3・5)
担当医	葛城	葛城	葛城	丸岡	葛城	担当医

**国民健康保険加入者のための**

**人間ドック・脳ドック費用の助成について**

市では、国民健康保険加入者の病気の予防と早期発見に努め、重症化を防ぐことにより健康の維持増進を図ることを目的として人間ドック、脳ドックの費用を助成します。  
対象者 いずれにも該当する人

- ① 申込日現在において当市の国民健康保険に1年以上加入している人（合併前の旧4町村での加入期間を含む）で受診日においても引き続いて国民健康保険の加入者である人
- ② 平成18年4月1日現在において満35歳以上満70歳未満の人
- ③ 申込日現在において国民健康保険税の滞納がない人

脳ドックによるMRIの検査は強力な磁気を使用するため、ペースメーカーや体内に金属類、人工骨などを埋め込んでいる人は受けられないことがあります。

受診者負担金  
人間ドック 10,000円  
脳ドック 12,000円

婦人科検診など追加希望検査項目の費用については、すべて個人負担となります。

申込方法 国民健康保険証と印かんを持参の上、受診申込者の住所地の各地域事務所市民環境課（榛原区の場合は、市民生活課）へ本人又は家族が直接申し込みください。資格審査の上、助成決定者には後日受診票を送付します。

申込者多数の場合は、受診できない場合があります。

申込期間 6月12日(月)～6月30日(金)

受診医療機関

**【人間ドック】**

市立病院（市内）、グランソール奈良（市内）、県健康づくりセンター（田原本町）、平成記念病院（橿原市）

**【脳ドック】**

市立病院（市内）、グランソール奈良（市内）、平成記念病院（橿原市）、大淀病院（大淀町）

☎市民生活課又は各地域事務所市民環境課